

農福連携インタビュー第1弾！ ～農作業×カフェ開店～

岡崎市では、農福連携を推進しています！

今回、農福連携を実施している一組の農家さんと福祉事業所のお話を伺いました。

【今回お話を伺った農家さんと福祉事業所の紹介】

農家の矢田ファミリー農園さんは、週1回程、福祉事業所のハートフルフレンズに農作業を委託しています。ハートフルフレンズは、支援員1名と施設の利用者約6名で取り組んでおり、作業内容は、草刈り、稲の苗箱の洗浄、大豆の収穫及び選別等様々です。

農家さん：矢田ファミリー農園 矢田さん（矢作地区）

・矢田さんは、お子様にアトピーがあったことから、化学肥料や農薬を使用しない栽培、有機栽培に意欲的に取り組まれており、安心安全な米や野菜を栽培し、消費者に届けることを目標とされています。

・米は、れんげ農法という方法で栽培しています。

（れんげ農法：秋にれんげの種を蒔き、春に花を咲かせたれんげを田んぼにすきこんで、天然の肥料にして栽培する方法であり、環境保全にもなる栽培方法）

福祉事業所：特定非営利活動法人ハートフルフレンズ（牧御堂町）

・就労継続B型、生活介護、共同生活援助（グループホーム）を運営。

・農福連携で農業をした経験から、「はっぴーカフェ」（牧御堂町）を令和5年4月に開店しました。



矢田ファミリー農園矢田さんとハートフルフレンズの利用者さん

農福連携についてお話を伺いました！

Q、農福連携を実施してみているいかがですか？

A、矢田さん：自分だけでは農業は成り立たなく、ハートフルフレンズさんに農作業に来てもらっているから、成り立っていると感じる。

効率や労働力だけを求めると、大事なことが失われてしまう。障がい者の方は、認識のテンポが違っただけであって私たちは待つてあげることが大事だと思う。障がい者の方は簡単な作業しかできないのではなく、細やかな作業をします。これは農業にとってはとても重要な力です。そのことを知ると、きっと農福連携を行う農家さんがもっと増えると思います。

A、ハートフルフレンズ支援員さん：農福連携を始めた頃は、支援員も利用者さんも農業経験が全く無く、また農作業が1年中あることも知らず、一緒に本を見ながら野菜や道具の種類等を勉強したりし、知識を高めていきました。

今では、ある利用者さんは、農作業の経験から「刈払機取扱作業者」の資格を取得もし、草刈り作業に対して自信や意欲に溢れている方もみえます。

利用者さんの生き生きとしている様子が見られ、農福連携を実施して良かったです。

Q、農福連携を行うにあたって、なにか工夫されていることはありますか？

A、ハートフルフレンズ支援員さん：現場では、農家さんの手を借りなくても支援員と利用者さんで作業に取り組めるようにしています。矢田さんに事前に作業内容を確認し、利用者さんの特性をみながら、その人にあった作業を選び、利用者さんに内容を説明します。また、初めての作業の場合は、作業に向かう前に、シミュレーションも行うようにしています。

何度か同じ作業をしている利用者さんは、支援員からの指示の前に自ら作業に取り組むこともでき、「自信」や「やりがい」にも繋がっています。利用者さんみんなに農作業を経験してもらいたいので、何度も農作業を依頼いただきありがとうございます。

Q、農作業はいかがですか？

A、ハートフルフレンズ利用者さん：矢田さんのところで採れた枝豆を家族に持っていくと喜んでくれるから嬉しい。雑草を抜く時に、スルッと抜けると気持ちよくて楽しい。



田植えの様子



自走式草刈機を運転中

農福連携のその先には！「はっぴーカフェ」開店！

ハートフルフレンズは、農福連携を行ったことをきっかけに『こころと体よろこぶ』をコンセプトに令和5年4月にカフェ「はっぴーカフェ」を開店しました。

農福連携を行うようになって、ハートフルフレンズ代表理事の杉浦さんは、野菜のおいしさに気づかされたと言います。

「はっぴーカフェ」では、農福連携を行っている農家さんや地域の農家さんから分けていただいた野菜やお米、またハートフルフレンズ自身で栽培した野菜等をできるだけ使った料理やスイーツを提供しています。調味料にもこだわり、矢田ファミリー農園の大豆を使って、自家製手作り味噌を使用したお味噌汁を提供しています。

利用者さんの中には、一部の料理やスイーツづくりを完全に任せている方もおり、カフェでの仕事から、やりがいや自信を持てているそうです。



調理場で料理を盛り付けているハートフルフレンズ利用者さんの様子

店内には、野菜、手作りスイーツやジャム、利用者さんがデザイン・作成した小物等が販売されており、どれも色彩豊かで感性があふれた作品ばかりです。カフェで使用するお皿も利用者さんの絵が印刷されているものを使用しています。

このような取り組みが、農福連携を行ったことから少しずつ広がり、利用者さんの就労や自信にもつながっています。



店内で販売されている商品（野菜、スイーツやジャム等の加工品）等が並ぶ

農福連携によって、生み出される可能性とは。

農業に関わることができている利用者さんの中には、デコボコした農地や土での作業を行うことによって、リハビリ効果も出ているそうです。土に触ることは身も心も丈夫に健康になる、とハートフルフレンズの杉浦さんは話されます。

農福連携で農業をした経験からカフェを開店することができ、カフェで働く利用者さんのやりがいや自信にもなり、農福連携を行ったことから、二転三転にも事が大きく進み、良い結果を得られているそうです。

人と人の気持ちのマッチングがベースにあれば、色々な可能性を見出し、大きく広がっていけると矢田さんも杉浦さんもおっしゃられていました。



足場の悪い土での作業はリハビリ効果も！



はっぴーカフェ案内役の手作りの案山子

このような取り組みに興味のある方は、ぜひ矢田ファミリー農園さんの参加している「マルシェ」やハートフルフレンズの「はっぴーカフェ」に足を運んでみて下さい。

そこでの出会いが、大きな可能性を秘めているかもしれません。

カフェでご飯やスイーツを食べながら、お話を伺ってみてはいかがでしょうか？



ハートフルフレンズ杉浦さんと利用者さん